



大西 則宏

新学校通学路における安全対策

通学路における児童生徒に対する安全対策は

問 安全・安心あつての学力向上、魅力ある学校づくりである。通学路における安全対策についてはPTAから要望書も提出されており、地元・保護者・通学路検討委員会も課題を持たれている。教育長は、どのように課題認識し対策を講じ、指示されているか。

答 通学路における安全対策については、PTAの皆さんや学校支援地域本部のボランティアの方々に子供たちの登下校時の安全見守りについて引き続きお願いし、御協力いただくことを検討している。また、保護者の皆さんや地域の事業所等に「こども110番の家」の参加協力をより拡大していきたいと考えている。全児童生徒

には学期に二回程度、登校指導を行うことや、通学路の安全点検については関係者の皆さんの御協力をいただき定期的に実施したいと考えている。細部にわたっては、点検中である。

問 教育長は日ごろ、安全・安心は最優先されるべきものである、全責任は教育委員会にあると述べられているが、積極性・責任が見えてこない。なぜ、保護者・地元・通学路検討委員会に課題認識を委ねるのではなく、教育委員会として、率先して問題解決しようとしているのか。

答 通学路における子供たちの安全の確保については、最優先されるべき課題であると考えている。検討委員会を通じて、それぞれの小学校区、西中学校、東中学

校で検討いただいている。その報告を受け課題整理したうえで、関係部局と協議をしていく。

意見 児童生徒の安全・安心があつてこそその学力向上、魅力ある学校づくりである。通学路対策は差し迫つた重要な課題であり、保護者等からの回答を待つまでもなく、町行政として把握して解決すべき問題は山積している。

答 弁からは、通学路対策に積極的・真摯に取り組む姿勢が感じられない。通学路対策を、町の最高意思決定機関の庁議で具体的に協議していないという点だが、早急に庁議で協議し、町行政全体で共有認識することを強く求める。

一般質問



西河 巧

「地域活性化に向け、新たな観光資源の発掘と活用」について

問 能勢町は、豊かな自然に恵まれ、浄瑠璃を初め多くの歴史ある伝統文化が育まれた地域である。地域の活性化を目指す上において、新たな観光資源の発掘と活用、能勢町の魅力をさらに高め最大限に生かす取り組みについて、また、これを推進する上で、新たなプロジェクトの必要性について伺う。

答 本町には、文化、自然、農産物など、魅力あふれる資源が数多く存在している。これらの一つ一つのブランド化、さらにそれらを結びつけることも新たな観光資源になり得ると、

一、「地域活性化に向け、新たな観光資源の発掘と活用」について
二、「安心、安全の町づくり」について

考えている。町の活性化を考えるにあたり、その役割は大きいものと考えている。今ある資源の認識と、そのための体制づくりも並行して考えるべきである

「安心、安全の町づくり」について

問 近年、大規模地震や風水害によって多くの人命が失われ、多大な被害が発生している。近年中に起こると予想される南海トラフの大地震や大型台風等による、土砂災害や河川の氾濫、危険個所の現状と課題について伺う。

答 自然災害に対する防災には、限界があるため、減災対策や地域防災計画

の見直し等により、被害を最小限に抑制することに留意した取り組みを進めていく。土砂災害危険箇所は能勢町管内において、土石流危険渓流が277カ所、地滑り危険箇所が14カ所、急傾斜地崩壊危険箇所が257カ所ある。現在、大阪府が土砂災害の恐れのある区域の調査を実施しており、今後土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の指定がなされてくる。

住民にリスクの開示を行い、警戒避難体制の構築と住民の避難行動意識の向上をはかり、地区単位のハザードマップの作成や避難訓練の実施に取り組んでいく。